多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について（答申素案）
～学び続ける教師を中核に、多様な強み専門性を持つ教職員集団への転換を図る～（令和8年11月17日）【概要】①

資料１－２

改革の背景

人口減少社会の進展：学校の課題が多様化する一方で教師不足が進行し、限られたリソースで教育の質の維持・向上が求められる ⇒ 教師は生涯にわたり学び続けることが前提に
生成AI等デジタル技術の進展：学びを変える一方で過度な依存が子供や教師の資質・能力へのリスクに ⇒ 教師はAI等を適切に利用しつつ子供の創造性や協働性などを育む必要
国際社会経済の変動：変化に対応しつつ多様性を尊重し協働できる人材育成 ⇒ 教師は知識伝達にとどまらず、予測困難な社会を主体的に生き抜く資質・能力を育成する専門職

➡ **生成AI等を活用しつつも、人間である教師としてふさわしい「学び続ける力」を備え、子供たちに予測困難な社会を生き抜く資質・能力を育む教師の育成が不可欠**

令和６年12月に諮問 ⇒ **令和３・４・６年答申を継承**し、教員養成を中心とした制度の抜本的再設計を具体化。明治期・戦後に続く大きな転換点となる改革

改革の方向性

- 学校の役割が今後も変わりうる中、「**学び続ける高度専門職業人**」「**学びをデザインする高度専門職たる学び続ける教師**」を実現する観点で、質の担保・向上が必須
- 教師のなり手不足深刻化・採用倍率低下等への対応には、**学校の働き方改革や勤務環境改善、社会的評価向上及びそれらの発信も前提**に、特に免許保有者拡大を目指す
- 社会の**多様な専門性を有する人材を教職に呼び込むこと自体に、質の担保・向上につながる**側面があることも踏まえる必要

➡ **養成・採用・研修を一体として再設計する必要があり、同時に「学び続ける教師を育成する教員養成とは何か」という問に向き合いながら、「学び続ける教師」の実現を目指す**

（参考）学び続ける教師の能力育成と多様な強み専門性を持つ教職員集団のイメージ



教師の質と量の担保向上を図るための教職課程、採用、研修の在り方

- 教師の資質能力は、採用・研修も含め、**教職生涯を通じて学び続けて伸ばす**もの
- 免許制度を、教育をつかさどる上で、**入職時点で求められる必須の基礎的な資質能力を担保**するものと定義し、その**要件を厳選**
- 教職課程を履修する学生が、**質の担保された教職課程**において、**自律的・主体的に自らの学びのカリキュラムや環境をデザイン**し、**学び続ける力を獲得**
- 求められる資質能力が確かに身に付く前提で、それを担保する**選択肢を拡大**し、**多様な社会人等の入職を促進**
- 一人一人の教師が学び続ける中で向上させる**強み専門性を、採用・配置・育成を通じて組織として活用**し、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成につなげる
- 改革の実行に際し、これまでの、養成は大学、採用・研修は教育委員会等という役割分担から、**両者が常に一体となって養成・採用・研修を行う形**に転換を図る

多様な専門性や背景等を有する社会人等が教職へ参入しやすくなるような制度の在り方

- 教職の質担保については、以下の考え方の元、**教職課程の質担保だけでなく、多様な人材によっても実現される**ものであることを前提に、**多様な専門性や背景等を有する社会人等が教職へ参入しやすく**し、教師の質と量の担保を図る具体的方策をパッケージで行う
  - **多様な経験を有する社会人等**が教師として教育に当たることは、多様な人材によって複雑な課題により対応できるなど、**多様な児童生徒への対応において非常に重要**
  - 探究的学習で**社会の「本物（真正性）」を提示できる社会人等が学びに付加価値**
  - **教職員組織においても、多様な人材によって活性化**し、より学びあう学校となるきっかけ
- 一方で、学校という場を通じて子供たちと関わるうえで**共通的に必要な資質能力があることを踏まえて制度を設計**。教職課程における共通的に学ぶ内容との関連でも捉える
- 同質性の高い教師集団を形成してきた教職課程から、**教師を目指す各学生が自らの好きを育み得意を伸ばし、それぞれが強み専門性を持ったチーム**になれるようなものに転換

多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について（答申素案）
～学び続ける教師を中核に、多様な強み専門性を持つ教職員集団への転換を図る～（令和8年11月17日）【概要】②

具体的な改革の内容（例）

教師の質と量の担保向上を図るための教職課程、採用、研修の在り方

○ 免許取得に必要となる**共通的に学ぶ基礎的な内容を厳選**し、多様な学部学科から免許取得できる環境を整備しつつ、併せて**「強み専門性」に係る学修を位置付ける**
- 厳選された共通的な学びによって教師として必須の資質能力を養ったうえで、学位課程の学びと連動した強み専門性（教科の専門性や指導法、日本語指導等、社会教育士や心理・福祉等の資格など。免許状への付記も可能に）を身につけ、キャリアの中で更に深めながら組織の力として活用
- 一般教養科目や介護等体験の内容を整理したうえで、教職課程内に位置付け

○ **次期学習指導要領等と密接に連動**した教職課程の**抜本的アップデート**
- 「学び続ける力」の為の自律的・主体的な学び。「社会に開かれた教育課程」の担い手の養成
- （例）「個々の多様な社会経済文化的な背景や特性の理解と包摂」、「学級経営」「教育の方法・技術及びデジタル学習基盤」の追加、特別支援教育に関する内容を２単位に拡大等
- 「特別の教育課程」等について、分野の状況を踏まえた指導体制柔軟化と質担保・向上等の検討
- 中学「情報・技術科」創設に対応した免許制度の在り方や環境整備等の検討

○ **現場の負担を軽減した質の高い教育実習**の実現に向けた検討
- 上限規制や報告書様式の全国標準化・電子化等、実習ガイドライン作成に向けた検討会を設置
- 教育実習のうち、一部を学校体験活動にすることを努力義務化

○ **大学内・大学間連携等**を通じた**質の高い教職課程**の実現と**地域における教員養成のハブ**としての役割を明確化
- 教科書による指導やデジタル学習基盤の活用等も含め、現場の職務に必要な能力が確実に身につくよう、国立教員養成大学・学部を中核に地域の公私立大学も含めた教員養成改革を進めて、「開かれた教職課程」を実現。国立大学の第５期中期目標・中期計画への位置付けも必要

○ コアカリキュラムの見直しと、目標への**到達状況を確認**するための**CBTの導入**
- コアカリキュラム・CBT（教職課程）・教員採用試験一次選考の内容を連動

○ 学び続ける教師の為の**研修の充実**とそのための環境整備
- 学習指導要領改訂も踏まえた研修の充実や、教特法に規定する協議会の活用等を検討

○ 強み専門性を勤務で深化させ、大学院での学修を通じて**専修免許状につなげる**

○ **大学院修学休業を**より多様な研究や活動も対象とできるよう**抜本的に拡充**

○ 免許状を、**基礎的な免許状・標準的な免許状・より上級の免許状**に再編
- 免許状の上進を推進するための仕組み

○ その他、幼稚園、特別支援学校、養護・栄養教諭に係る養成・採用・研修の改革等

○ 児童生徒性暴力等の防止等に係る対応

多様な専門性や背景等を有する社会人等が教職へ参入しやすくなるような制度の在り方

○ 普通免許状取得について、**大学院新教職課程等の社会人等向けのルート**を整備
- 社会人としての経験を踏まえた、大学院で１年程度、実践的な学修を中心に学ぶ課程を新設
- 加えて、教職特別課程、教員資格認定試験、通信制等、多様な選択肢を含めた制度設計

○ 算数・理科等について**小学校専科の普通免許状を新設**

○ **高専卒業者の免許取得**を可能に

○ **特別免許状の授与要件・手続きを明確化**し、多様な社会人等の参入を促進
- 限定的な提示にとどまっていた授与基準を一定明確化。また事務手続きの負担軽減策の好事例を展開し、手続きに係る手間を簡便に。

○ **特別免許状授与の適格性**判断の方法について、**多様な手段**の導入を検討
- （例）教員資格認定試験の弾力的な運用や大学院等での学修を資質能力立証に活用、等

○ 教師以外の**専門スタッフの資質・量の担保策を整備**し、チーム学校を強化
- 特別の教育課程等での専門家の活用に当たり、学校現場の基礎的理解の促進を図り質を担保

今後更に中教審において検討・議論が必要な事項

○ 免許状の授与に係る**国と地方の役割分担**の在り方についてさらに検討

○ **教職員支援機構（NITS）**の資質能力向上のハブ・主体としての研修・研究実施機能と、能力立証・質保証の担い手としての**機能の強化を図る**べく、今後会議体で議論

○ 教師になった者への**学部段階の奨学金返還支援等**の仕組み構築に向けた制度設計

これからの教師と教員養成の在り方に係る考え方

AI時代における教師の存在意義の再定義：AIは教師の専門性を代替するものでなく、専門的判断を補完・拡張する存在であり、目標設定、価値判断、責任の引受けは人間である教師が中心となって担うべき。教師は実践と省察を通じて成長・変化し続ける動的な専門職であり、子供とともに学びの主体であり、学校教育の主人公。教師の質の中心は、指導に必要な知識や技能のみならず、確かな自己理解の下他者と関わりながら変化する「学び続ける力」に置かれるべき。

「大学における教員養成」の原点への問い直し：大学という場にあることで自動的に理念が実現されるわけではなく、学問に裏付けられた深い学びが教職課程で本当に実現されているか、社会に開かれた教員養成が実現できているか、「強み専門性」導入を機に大学全体での教員養成体制を継続的に検証・改善する必要。

人口減少社会における持続可能な教育システムの構築：今後起きるリソースの減少・不足を前提・出発点に、学校のみならず教員養成を担う大学や教育委員会制度、生成AI等を活用した新たな教育システム、国と地方の役割分担等の在り方について、教育の質を維持向上しながら持続可能性を確保する方策を、中教審として検討する必要。